

『ゴルフとは、自らを自らで励ますこと。』



バリューゴルフ  
**VALUE GOLF**  
www.valuegolf.co.jp

## 松山英樹、勝つ

松山英樹が米男子ゴルフツアーのジェネシス招待で優勝した。日本のゴルフファンの誰しもが待ちに待った結果である。アジアの選手で最多勝利となる9勝目である。しかも、6打差を逆転するという劇的な勝利。テレビでご覧になっていた方は、最高の興奮を味わったに違いない。

「2022年1月のソニーオープン以来の優勝。8回優勝してから怪我などですごく長く感じていた。トップ10にも全然入れなくなって、もう優勝なんかできないんじゃないかと思うことがたくさんありました」と振り返る。考えてみれば、トップ10でさえ、昨年3月の「ザ・プレーヤー選手権」の5位を最後に遠ざかっていた。フェデックスカップランキングも、昨年の終了時には、自己ワーストの50位。最終戦のツアー選手権も逃し、現役最長だった連続出場は9年でストップした。

今季に入り、厳しい体調コントロールをしていた。そのため、体の痛みは抑えられ、少しずつ体調は上向いていた。特に、アイアンショットに関しては、プロの中でも群を抜いて技術力は高い。パターの悩みは徐々に解決していき、この最終日の爆発につながっていたように思う。

「後半になって、上位の選手が伸びていなかったのでも、チャンスがあるかな、と思った」。後半、インを5打差で迎えたが、2度目の3連続バーディーで一気に差を縮めた。特に、11番のパー5では、潜り込んだラフの中から、見事なスピンコントロールで3打目を30cmに寄せてバーディー。このあたりからギャ

ラリーもヒートアップし、松山の周りに集まり始めた。よくいわれる「ゾーンに入った」のであるが、12番で15mのロングパットを決め、押し寄せたギャラリーの拍手を浴びた。さらに、15番の2打目は、187ヤードをなんと25cmにつけるスーパーショット。16番のパー3では、ほぼホールインかと思われるほどの奇跡的なショット。会場のムードは優勝を予想しているかのように、松山一色になった。上がったみると、9バーディーの62、というビッグスコア。大会ホストのタイガー・ウッズも、「今日の松山は奇跡的に素晴らしい」とコメントを残した。

「大きな夢を見ること。そして夢を追い、最後まで実現するまで追い続けること。夢が完成するまで満足してはいけない」。この言葉は、ディズニの創業者のウォルト・ディズニの言葉であるが、まさにこの日の松山は、存在そのものが「夢」そのものだったのではないだろうか。本人はもちろん、私たちにとても。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業(現SRIスポーツ)に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデューサー、コンサルティングなども手掛けている。